

Story 11

震災から10年。 東海地域での暮らし

P せん
の場合 すっかり東海人。

「こちらの暮らしの方が長くなってきている。最初は大変だった方も文べき。」

おもしろい
ゴミも「ほる！」

Q み
の場合 いまだ、馬川染めす...

「こちらにも友だちいるけど、最初に1年だけ避難した北海道の友だちが一番仲がいい。」

「こちらは近所づきあいがなすすぎてさみしい。」

R せん
の場合 将来の選択肢が増えた。経馬できないこともできた。

「東北にいたら高校も大学もあまり選べなかつたと思う。留学できる高校に進学できて良かった！」

S せん
の場合 都会は便利だけど、やはり自然が大好き。

「自然のある暮らしがいいな！」

若者一人ひとりの今の想い

10年が経過し、子どもたちはそれぞれ高校生や大学生、社会人に成長しました。予期せぬ避難から新しい土地でのこれまでの暮らしの中で、大切な人と出会い、いい事もたくさんあったという人もいれば、嬉しかったことはないという人もいます。肝心なのは、様々な心情を尊重し、一人ひとりのこれからの未来を応援していくことです。

- 嫌な思い出や悲しい思い出もあるけど、時が経過するにつれて、思い出すのがだんだん大丈夫になってきたように感じる。最近では人生の早めの節目だったと思うようにしている。
(福島県国見町:現在大学1年生)
- 福島での制限のある暮らしと、名古屋での震災後の経験は、どちらも同じくらい大変で、どちらがよかったということはなく複雑。震災以降、バラバラに暮らしている家族がずっと気がかり。
(福島県白河市:現在20代前半)
- 家族に大学で東北に行ってもいいか相談したら、「何のために避難したのか、放射能が怖くて来たのに戻るの?」と言われた。家族の思いをわかった上で聞いた確認作業でもあったので、納得はしている。自分なりの区切りをつけたかった。
(福島県いわき市:現在大学3年生)
- 最初はみんな戻れると思っていた。大人が思っていた分、そう思っていた。でも今戻っても家もないし、戻らないんだなと思ってからは、生活の基盤がこっちになって、戻りたいという気持ちはなくなった。
(福島県富岡町:現在大学3年生)

Story 12

知ってほしい云えたい!

「津波でんご」

命を大切に!
自分の命を守って!!



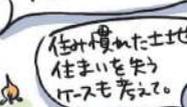
日頃のちょっとした防災知識が役に立つ!!

電話ががたがた
SNS



緊急連絡を優先させ

アットホームな知識やグッズは役に立つ!!



住み慣れた土地に住まいを失うハズも考えて

辛くて悲しいこともあるけど...
全てが悪いことばかりじゃない
たくさんいい出会いもある!



日常はある日突然崩れる。

あたりまえの、日々を
かけがえのない 大切に。

夫は大丈夫と
思っていたけど、
そうじゃなかった。
他人ごとじゃ無い。



災害はいつどこで
起きるかわからない。

震災や避難を経験していない皆さんへ 若者からのメッセージ

- 震災直後、私は海から数メートルの場所におり、津波が生まれ育った街を飲み込んでいく一部始終を高台から見ました。震災では家族を助けに自宅に戻り、被災した方も多数います。私の育った岩手県釜石市では『津波でんでんこ』という教を小中学校の頃から教わってきました。「津波が来たら、取る物も取り敢えず、肉親にも構わずに、各自でんでんばらばらに高台へと逃げろ」「自分の命は自分で守れ」という意味です。いざ自分が震災に直面した際は、ぜひこの言葉を思い出してほしいです。
- 震災だけでなく原発事故の被害も大きかった。原発事故について政府はほとんど情報を開示していなかったのも、母が必死に情報収集していた。物的な備えも大切ですが、震災が起きたときには住む場所が変わるかもしれないという可能性も考えておくといいと思います。
- 地震を機に今までの生活が180°変わることはありますが、全てが悪いことではありません。自分の命を守る為にまずできることは、災害の知識を得ることだと思います。怖いという気持ちをなくすためには、備えることが最大の防御です。一緒に頑張りましょう。
- 震災や原発事故など、非日常なことが起こるとパニックになったり、どうしたらいいか分からなくと思います。ですが、いざというとき助けになってくれたり、支えてくれる人は必ず周りにいます。私自身、数えきれないほどの方々に助けをいただきました。避難先で大切な人たちもできました。辛いこと、悲しいこともあるかもしれませんが、周りの人と支え合って、新しい人と出会えば、震災が悪いことしかなかったという考えも少しはなくなると思います。知識や対策の備えだったら今からでもできるので、日頃から気にかけるようにしてみてください。

● 東日本大震災において、被災していない人でも、どのようなことが起きていたのか、今どのようになっているのか知って欲しいです。

● 私は震災後、当時のクラスメートや友だちと1人も会えておらず、今彼らがどうなっているかも全く分かりません。災害というのは今まであたり前だと思っていた生活を一瞬にして奪い去る恐ろしいものです。今過ごしている何気ない日常は、あたり前ではありません。1日1日を大切に過ごしてください。

● 日常はある日突然崩れます。一度崩れたものは時間をかけて元に戻るものがありますが、戻らないものもあります。「自分は大丈夫、そんなこと起こらない」と心のどこかで思っていないですか。私も震災当時そう思っていました。でもそれはある日突然やってきます。なので、あたり前だと思っている今と家族を大切にすることが後悔なく生きることにつながります。今あるかけがえのないものを大切に。そして「想定外だった」を一つでも減らし、出来ることから備えることが自分と自分の大切なものを守るためにできることです。

● 環境の変化は自分が思っているより体に負担がかかります。自分の健康第一に心を病まないよう、辛くなったら他の人を頼ってください。人はそんなに強い生き物ではないです。

● 被災して一人でいる人がいれば寄り添って欲しい。その人が何をしたいのか、そっとしておいて欲しいのか、相手の身になって考えて、少しでも声をかけて欲しい。それができる人が一人でも増えれば、救われる人が増えると思います。